



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

子供を育てるとは…

ある方から「人を助けた時に、人は幸せになる」という話を伺いました。その方の御両親は、家に多くの方たちを招き入れ、寝食を共にし、他者を受け入れながら生活をなさっていたとのことで、小学生の頃は、公園にいるホームレスの方に、「おにぎりを渡してきなさい」とお母様に命じられて公園に行き、こわごわとおにぎりを渡すことを行っていたとのこと。怖いなあと思って渡しても、ホームレスの方たちが、嬉しそうにおにぎりを食べる様子を見て、嬉しい気持ちを味わったそうです。そういった経験を通して、「人を助けた時に、人は幸せになる」だから、困っている人を助けられる人になるように、教育の現場で子供たちを育てて行ってほしいと伝えられました。その方は、ホームレス支援、鬱病に苦しむ青年の支援、罪を犯した人たちの更生支援と幅広く活動されています。そしてこれから、子供の居場所づくりのために行動しようとしておられます。

生き方のベースは、両親からもらったと、その方は、お話されてきました。子供たちに何に価値をおいて生きて行ってほしいのか、何に価値をおいて生きていけば幸せになれるのかを大人が明確にもつことが必要であると考えます。そして、その価値観をもとに自分自身が生きていくことが求められるのではないかと思います。

.....

「今、子供を喜ばせることばかりに目を向けるのではなく、「将来」の幸せにつながるような価値観を伝えることを大事にしてい

ただきたい。子供に価値観を伝えるのに、言葉はいりません。御自身が誠実に努力して生きる姿を見せるだけでいいのです。

子供は、親や教師の「いう通り」にはなりません。「する通り」になります。

渡辺和子：子ども応援だより

.....

渡辺和子さんの最後の言葉に、襟を正さなければという思いになりました。渡辺和子さんも、学生から、「お話されていることを実践されているのか」という質問に、「努力している」と答え、「一生の間の努力かもしれないが、続けていくつもりである」と、子ども応援だよりを結んでいました。

常に利他的に生きることは難しいけれど、利他的な瞬間を生きることに努めていきたいと改めて思いました。

すてきな子供たち

先日、落ち葉掃きをしてくださっている保護者の方から、小学1年生の女の子が、「ありがとう」と言って、お花をくれたという話を伺いました。この時期、校庭は落ち葉でいっぱいになります。ですから、PTAの方々が落ち葉を掃いてくださること、本当にありがたいと思っています。その中で、子供が自分なりの表現で、感謝の思いを伝えたという姿に心の豊かさを感じました。

また、グループ活動をしていた4年生が、話す順番を決めるためにじゃんけんを始めた際、すぐに準備ができなかった友達に気付いた子が「ちょっと待って、みんなでやろう」と話し、その友達を待つ姿がありました。優しさあふれるすてきな姿でした。